



3・4年生 音楽発表会(学校公開デー)

3・4年生は12月5日(木)、イスのサンケイホールで開催される鈴鹿市音楽会に参加します。そこでは、合唱と合奏を披露します。残念ながら、保護者の音楽会の参観が認められていません。そこで、本校では、11月27日(水)の学校公開デーの時に、発表当日と同じ演目をしますので、たくさんの方のご来場をお待ちしています。

《 3・4年生校内音楽発表会 》

会 場：体育館

時 間：3限目(10:45-)

演奏曲目：私と小鳥と鈴と

ダンスホール



子どもたちは、この音楽の取組を通して様々な力を育んでいきます。その中の一つとして非認知能力も育むことができます。そこで、この取組のねらいや子どもたちへの願い、また音楽と非認知能力との関係等について、音楽担当の木村先生に聞いてみました。

《 音楽担当 木村先生から 》

音楽会に参加することで、ともに助け合い、協力し合い、心を一つに音楽を作り上げる楽しさを体験してほしいと願っています。音楽は非認知能力を高めるのに、とても効果的な手段と言われています。例えば、歌うことで自分の感情を表現したり、歌詞に共感したりすることで、非認知能力は育っていきます。また、合奏ではそれぞれのパートに分れ、助け合い練習することで、周りからの刺激を受け意欲につながったり、全体練習では努力した達成感を味わったりできます。27日の音楽発表会は本番と同じように入退場を含めての演奏のほかに、少しですが練習の様子も見見ていただきたいと思います。ぜひ、子どもたちの真剣な表情とやり遂げた達成感に満ち溢れる笑顔を見にきてください。

【お家の方へのお願い】

学校であったことや、授業で分かったこと等、お家で子どもたちにたくさんしゃべらせてあげてください。お家の方に話を聞いてもらうことで、子どもたちは、自己肯定感を高めていきます。

ヤマハ音楽研究所が音楽と非認知能力の関係について紹介していますので、この紙面にて、一部お伝えします。

《合唱・合奏が生み出す「連帯感」》

みんなで一緒にハーモニーを楽しんだり、上手にできない子がいればみんなで助けたり、自分がうまくできないときは助けてもらったり、といった他の子どもや大人とのかかわりの中で、共感する力や思いやりの気持ちが育まれていくと考えられます。

≪ 3年生担任 田中先生から ≫

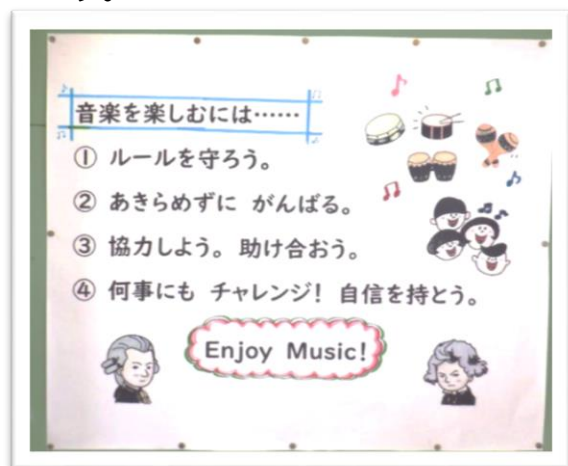
子どもたちは、音楽会に向け、休み時間も取り組むほど、一生懸命に練習しています。何事にも子どもたちには得意・不得意があります。特に楽器演奏に対しては、その様子が顕著に表れていました。「楽譜が読めない。分からない」という子が多い中、どうしていいかなと迷っていると、「私わかるから一緒に練習するよ。」「ちょっと助けてほしい。」「同じパートやから合わせてみよう。」と声をかけあうことで、助け合い、支え合いが子どもたちの中で生まれていました。また、一人だとあきらめてしまうことも周りの姿を見て、もう少し踏ん張ってみようかなと、頑張る子もいました。この演奏は子どもたちが、ともに助け合い、励まし合ったからこそできたものであると思っています。ぜひ一生懸命頑張る姿を見に来ていただきたいです。

≪ 4年生担任 小山先生から ≫

子どもたちは、音楽会に向けて日々練習を重ねています。授業の時間だけでなく、自主的に休み時間などにも練習に励む姿が見られます。さらに、練習の際には同じ楽器の子どもたち同士で今日の練習の目標を相談して設定したり、「ここ苦手やからもう一回やろ」と練習を工夫したりする様子が見られます。そのような積み重ねの中で、子どもたちの演奏も上達してきました。保護者の皆様につきましては、引き続きそのような姿を温かく見守っていただいていくとともに、ぜひその成果を聞きに来ていただければと思います。



- 音楽室に掲示してあります。これらは、実は非認知能力を示しています。音楽の取組を通して、非認知能力を伸ばしています。



- ・現代の社会は変化が激しいため、単に知識を詰め込むだけの学習よりも、問題解決能力、コミュニケーション能力、協調性等、非認知能力がより求められるようになってきている。
- ・これまでの研究により、学力が高い人が必ずしも社会的に成功するとは限らないことが明らかになってきており、非認知能力の高い人が、仕事や人間関係で成功しやすいということが示されるようになってきた。

非認知能力が注目される理由を生成 AI に聞いてみました。